



人的能力の活用

日本曹達株式會社

社長 田中東馬

戦後日本の企業における自己資本の貧困。これに由來するオーバー・ローンの悩み。また、好況不況の波の甚だしい金屬鑛業の性格に鑑み、業界現下の好況に處するあり方。さらにまた、狭小な國土、貧弱な資源の上に置かれた過大人口を以てして、經濟の基盤を固めるために外貨を獲得するについて採るべき方策。これらについては、本欄でもしばしば論ぜられてゐるから、私は、少しく觀點を變えて、日本の人的能力の活用、それも智的能力の活用ということを考えていふと思う。

國民の間に初等教育が普及してゐることは、終戦前から日本の一つの誇りとなつてゐた。初等教育のみならず高等教育についても、日本はアメリカよりもはるかに普及してゐるのではないかと思はれる。アメリカの生産會社における人員構成の統計を見ると、學卒エンジニアたる従業員の數が日本に比べて非常に少いことに氣がつく。この少い知識人を以てして、しかも絶え間なく卓越した技術を生産業的水準に高め、それを日本が追ふことに汲々としてゐる圖は、思えば情ない話である。

何といつても日本の資力、資源は非常に貧弱なものであるから、これを補うために、技術その他人間の智能に期待するところ大なるものがなければならぬ。勞働力豊富という強みも、かゝる内容にまで深化させて考へるべきである。我々は、第一次大戦で疲弊したドイツが技術を以て復興し（爲政者の狙いが悪かつたために挫折したが）またスイスが精密工業を以て立つてゐる事實を、この際もう一度考へ直してゐる必要がある。

私は、我々日本人は量、質共にその技術的頭腦に事欠くとは思はれない。むしろあり余つてゐる。しかし活用が十分でない。多くは小手先の器用に止まつてゐる。いたずらに西歐で實つた果實を喫することゝ満足してゐたのでは、常に立ちおくれの状態から脱却できない。

もちろん私は排外主義、獨善に陥つてゐるのではない。十數年のおくれを取り返すためには、取りあへず千萬金を投じて設備技術を導入することは絶対に必要である。しかし、更に、そのよつて立つ地盤をもどつしりと消化し、日本に移植した上は日本の國土で育成し、日本の血を通わせなければならぬ。非人情と見える科學や技術にもそれぞれ地理風土の反映があり、歴史の裏付けがあるものである。これらを論理的に追求し、地道に所與の條件に適合させて行つたならば、日本の生産技術の進歩に貢献すること、けだし大なるものがあろう。

それには産業界全體を通じて大きな組織的な流れを形成し、智能を結集することが必要である。政府の適切な施策をも求めなければならぬし、活潑な助成措置が望まれるであらう。

日本鑛業協會誌（第五卷第四號）

四月號目次

（卷頭言）

☆人的能力の活用……………田中東馬…一

☆鑛山業における

資本蓄積の一斷面……………小田賢太郎…二

（協會賞研究発表）

☆錫浮選研究經過報告

太平鈹業株式會社生野鈹業所選鈹課…九

☆景勝文化財は地下資源の

開發を阻むか……………柳生六郎…三

（特集）

☆北海道鑛業の概況（下）……………三

▽鑛山の科學管理……………三

▽月間の動き……………三

▽協會だより……………三

▽ニュース……………三

▽資料……………三

〔表紙写真〕 松尾鈹業所硫黃製鍊工場